

**今冬のボーナスは「減りそう」が大きく増加
～使い道は、買物や旅行・レジャー等で減らす傾向強まる～**

【調査結果のポイント】

1. 今冬ボーナスの見通しは、「減りそう」が昨年調査を 13.6 ポイント上回る 32.8%、一方、「増えそう」は 7.2 ポイント下回る 4.9%となっており、かなり厳しい見通しとなっている。年代別、世帯主の勤務先別に見ても、各年代・勤務先で「減りそう」との回答が昨年より増加している。
2. ボーナスの使い道は、「買物」、「交際費」、「旅行・レジャー」、「お歳暮」で「減りそう」との回答が昨年より大幅に増加しており、ボーナス商戦などへの影響が心配される結果となっている。

【調査概要】

調査時期：10月16日～11月4日
調査対象：熊本市内在住の女性 500人
調査方法：郵送

「第20回消費予報調査」の一部として実施
有効回答数：241（有効回答率 48.0%）

同調査で「ボーナス有り」と回答した人
回答者の属性

（1）年代別

	人数	%
20代	46	19.1%
30代	68	28.2%
40代	61	25.3%
50代	53	22.0%
60代	13	5.4%
全体	241	100.0%

（2）世帯主の勤務先別

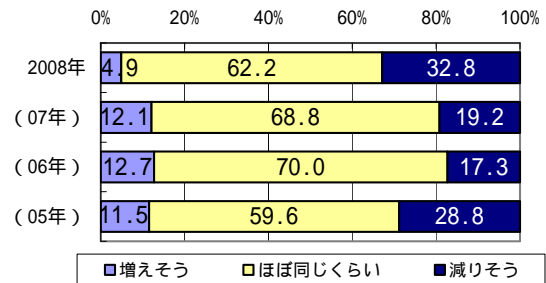
	人数	%
民間企業	176	73.0%
うち県外企業	63	26.1%
うち県内企業	113	46.9%
公務員	41	17.0%
その他	24	10.0%
全体	241	100.0%

1. ボーナスの支給予想

今冬のボーナス見通しについて尋ねたところ、「増えそう」との回答は 4.9%で昨年調査

を 7.2 ポイント下回っており、一方、「減りそう」は 32.8%と昨年より 13.6 ポイント上回る結果となった（図表 1）。過去 3 年と比較するとかなり厳しい見通しとなっている。

図表 1 ボーナスの支給予想



2. 年代別支給予想

年代別にみると、各年代で「減りそう」との回答が昨年を上回っており、いずれも厳しい見通しとなっている（図表 2）。

特に、昨年調査時には明るい見通しであった 20 代においては、「増えそう」が昨年の 32.4%から 23.7 ポイントも減少して 8.7%、「減りそう」は 2.9%から 21.0 ポイント増加して 23.9%となっており、大きく落ち込んでいる。

3. 勤務先別予想

勤務先別にみると、民間企業は、「増えそう」との回答が昨年の15.0%から11.0ポイント減少し4.0%、一方、「減りそう」は昨年の18.0%から15.0ポイント増加し33.0%と、大変厳しい見通しとなっている(図表3)。

中でも、県外企業においては、昨年は、「増えそう」との回答が20.7%に上り、比較的明るい見通しであったが、今回調査ではわずか1.6%にとどまっている。

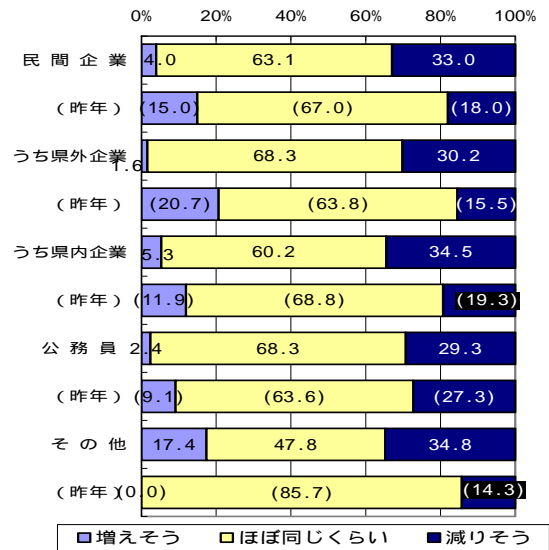
また、公務員については、人事院および熊本県・市の人事委員会の勧告により期末・勤勉手当が現行水準のまま据え置かれる模様であるため、民間企業ほど昨年からの大きな落ち込みは見られないが、厳しい見通しであることには変わりないようである。

4. ボーナスからの支出予定

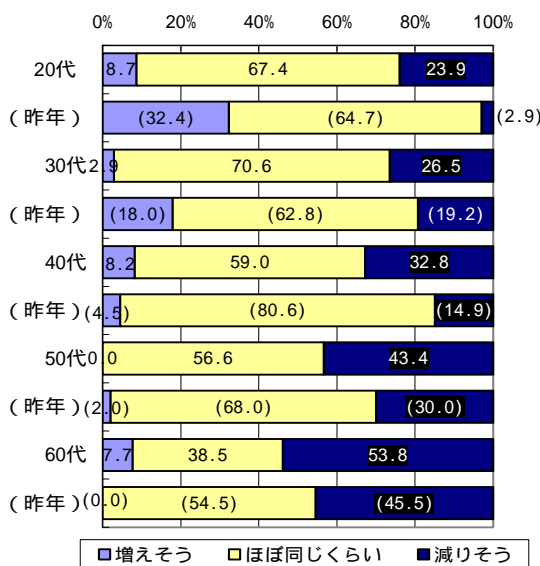
ボーナスからの支出予定について尋ねたところ、「買物」(90.4%)が最も多く、「預貯金」(89.7%)、「生活費補填」(85.9%)などが続いている(図表4)。

但し、「買物」、「交際費」、「旅行・レジャー」、「お歳暮」は、「減りそう」との回答が昨年を大きく上回っており、一方で、「生活費補填」や「ローン返済」は、「増えそう」が若干ながら増加している。景気後退による家計への不安感が強く見られ、ボーナス商戦などへの影響が心配される結果となった。

図表3 勤務先別支給予想



図表2 年代別支給予想



図表4 ボーナスからの支出予定

